どうぶつの細菌検査 結果報告書の見方

常在菌も検出します。
細胞診と併せて起因菌を
推定してください。

mecA陽性の場合はβラクタム系が
R★(耐性)と判定されます。
(注釈※5参照)

D-テスト陽性の場合は
CLDMがR★★(耐性)と
判定されます。
(注釈※6参照)

どうぶつの細菌検査
結果報告書

病院名：
担当医：

検査報告日：
検査受付日：
送付方法：

カルテNo.：
患者名：

検査名：皮膚細菌検査 よくばりセット
追加薬剤：

動物種：犬
採取部位：

1. 細菌培養同定検査
【検出菌】
①：*Staphylococcus pseudintermedius*（ブドウ球菌）
②：*Enterococcus faecalis*（腸球菌）
③：-

菌量	mecA判定※5	D-テスト※6
4+	陽性	陽性
2+	対象外	対象外

尿定量培養
(オプション)

	カテーテル尿	10^4 CFU/mL以上
CFU/mL	膀胱穿刺尿	10^3 CFU/mL以上

2. 薬剤感受性検査結果

【薬剤名】	検出菌① 判定※1	阻止円(mm)	判定基準※2 S	I	R	検出菌② 判定※1	阻止円(mm)	判定基準※2 S	I	R	検出菌③ 判定※1	阻止円(mm)	判定基準※2 S	I	R
アモキシシリンクラブラン酸	R*	34	≧20		≦19	R*	30	≧20		≦19					
セファレキシン	R*	25	≧18	15-17	≦14	R	-		N/A※3-						
セフポドキシム	R*	29	≧21	18-20	≦17	R	-		N/A※3-						
セフォベシン	R*	34	≧21		≦20	R	-		N/A※3-						
ファロペネム	R*	38	≧16	13-15	≦12	R*	23	≧16	13-15	≦12					
エンロフロキサシン	R	-	≧23	17-22	≦16	S	24	≧23	17-22	≦16					
マルボフロキサシン	R	-	≧20	15-19	≦14	I	18	≧20	15-19	≦14					
ゲンタマイシン	R	12	≧15	13-14	≦12	R	-		N/A※3-						
ST合剤	S	18	≧16	11-15	≦10	R	-		N/A※3-						
クリンダマイシン	R**	25	≧21	15-20	≦14	R	-		N/A※3-						
リンコマイシン	R	-	≧21	17-20	≦16	R	21		N/A※3-						
エリスロマイシン	R	-	≧23	14-22	≦13	S	23	≧23	14-22	≦13					
ドキシサイクリン	R	10	≧16	13-15	≦12	R	12	≧16	13-15	≦12					
ミノサイクリン	I	15	≧19	15-18	≦14	R	-	≧19	15-18	≦14					
クロラムフェニコール	S	26	≧18	13-17	≦12	R	9	≧18	13-17	≦12					
ホスホマイシン	S	41	≧15	12-14	≦11	S	25	≧16	13-15	≦12					
リファンピシン	S	31	≧20	17-19	≦16	S	25	≧20	17-19	≦16					
ムピロシン	S	39	≧14		≦13	S	19	≧14		≦13					

mecA
陽性

D-テスト
陽性

“ — ”は阻止円の
形成がなくR(耐性)と
判定されます。

自然耐性の場合は
阻止円形成があっても
R(耐性)と判定されます。

S(感受性)である抗菌薬の
処方を推奨しています。
(起因菌に対してのみ)

判定基準をより大きく上回っている抗菌薬は
判定の信頼度が高いことを意味します。

各種判定の注釈となります。
ご参照ください。

※1 S：感受性 ／ I：中間 ／ R：耐性 ／ - ：阻止円未形成 ／ 空欄：未実施
※2 CLSIの判定基準に準ずる（CLSIに記載がない場合、他菌種の基準を外挿）
※3 細菌が自然耐性を持つ抗菌薬は、阻止円形成に関わらずRで報告
※4 判定基準値が無い場合、抗菌薬の効果が乏しい可能性があるためRで報告
※5 **R***:ブドウ球菌のメチシリン耐性遺伝子を検出する検査です。陽性の場合は原則すべてのβラクタム系抗菌薬に耐性を示す可能性が高くなります。
※6 **R****:ブドウ球菌と連鎖球菌のCLDM誘導耐性を調べる検査です。陽性の場合は、CLDMの潜在的耐性が疑われます。

お問い合わせ検体番号：